



— 特集 — JA佐波伊勢崎 合併30年の歩み

食育・食農教育に取り組もう!

時代とともに私たちの生活はますます便利になり、「食」も多様化してきました。その一方で、食の安全・安心を揺るがす事件や食をきっかけとした生活習慣病の増加など、「食」に関する多くの課題も発生しています。また、普段口にしている野菜の名前が分からないなどの知識不足だけでなく、子どもの欠食やコミュニケーションがなく一人で食事をするいわゆる「孤食」が社会問題となるなど、将来を担う子どもたちの「食」の乱れは大変重大な問題で、「食」を通じた教育、「食育」の重要性が増しています。

「食育」は生きる上での基本であり、健全な食生活を実践することができる人を育てるものです。この「食育」に対する理解を深め、食育推進活動の一層の充実と定着を図るために、食育推進基本計画では**毎年6月を【食育月間】**として定めています。また、**毎月19日は自分や家族の食生活を見直す【食育の日】**とされています。

- | | | | |
|---------------|---------------|--------------|----------------|
| 1 みんなで楽しく食べよう | 2 朝ごはんを食べよう | 3 バランスよく食べよう | 4 取りすぎないやせすぎない |
| 5 よくかんで食べよう | 6 手を洗おう | 7 災害にそなえよう | 8 食べ残しをなくそう |
| 9 産地を応援しよう | 10 食・農の体験をしよう | 11 和食文化を伝えよう | 12 食育を推進しよう |

▲食育ピクトグラム

JAグループでは、「食」がもつ多様な役割の大切さを伝える「食育」をさらにパワーアップして、「食」を支える根本である農業に関する知識・体験も含んだ「食農教育」の大切さを伝えています。

食育 + 農業 = 食農教育

食農教育では、一般的な食育活動に加えてそれを支える農業や地域・自然との関わりにも注目し、私たちの食を支える様々な形の農業活動を知り、体験していただくことで子どもはもちろん、大人にも様々な価値を学んでほしいと考えています。

(JAグループHPから引用)



食育および食農教育を実践するのは、皆さん一人ひとりです。ぜひこの機会に改めて「食」について考えてみませんか？

JA佐波伊勢崎が誕生してから今年で30年が経ちました。その間に様々な事業や活動を行い、組合員や地域住民と共に歩み続けてきました。今回はこれまでの取り組みを振り返りながら、地域の皆様にもっとJAのことを知っていただけたらと思います。



佐波伊勢崎農業協同組合
代表理事組合長 森村孝利

昔の中国の古いことわざに、井戸の水を飲むときは、井戸を掘った人の苦勞を忘れてはならないという言葉があります。これまでに築き上げていただいたJA佐波伊勢崎をさらに発展させ、地域の農業振興と組合員一人ひとりが幸せに暮らせる社会の実現のため、役職員一丸となりJA活動をさらに前進させたいと思います。また、先人たちへの感謝とともに、次世代へきちんとしたタスキを渡せるよう、JA佐波伊勢崎の更なる発展を目指します。

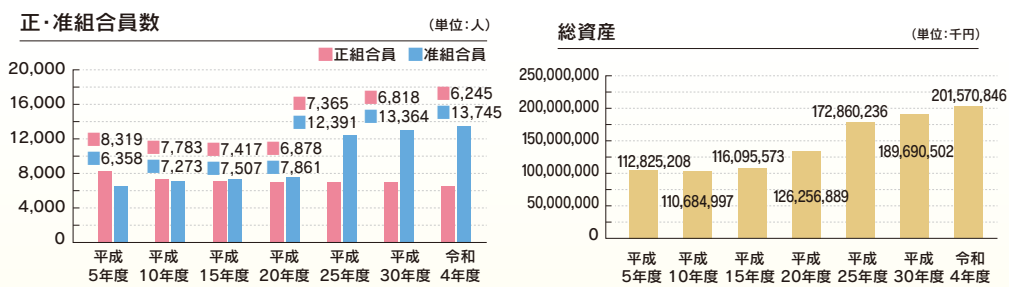
JA佐波伊勢崎の誕生

平成5年3月1日、伊勢崎市・佐波東村・群馬境町・玉村町の各JAの大同団結によりJA佐波伊勢崎が誕生。その後、平成22年3月1日にJA佐波伊勢崎とJA赤堀町が合併したことで、新生JA佐波伊勢崎が誕生しました。この合併により県内有数の大型JAとなりました。



数字で見るJA佐波伊勢崎

正組合員＝農業を仕事にしている人(団体)
准組合員＝地域に住み農業以外の仕事をしている人



JA佐波伊勢崎では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に掲げ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けた取り組み

広域営農拠点施設として選果場を建設

●トマトセンター
前身のトマト選果場が稼働してから令和6年で50周年を迎えます。消費者との交流や農業振興につなげて活気を取り戻そうと、トマトセンター利用組合では今年3月に「トマトまつり～トマトマ～」を開催。選果施設や管内のトマトを楽しく学べるイベントとして、600名を超える来場者でにぎわいました。来年は50周年を記念したイベントを開催予定です。



▲選果機の見学



▲箱詰めをする子どもと組合員



●なす・きゅうり選果場
「なす・きゅうり選果場」は平成26年2月の雪害からの完全復興のシンボル・地域生産振興の象徴として、選果場を求める声が高まったことをきっかけに計画され、平成29年に設立しました。スケールメリットを生かした有利販売を行い、生産者の省力化や規模拡大にも貢献しています。また、生産者同士で栽培技術を共有するなど、品質および収量のさらなる向上を目指します。

生産資材等価格高騰対策

JAグループとしては、国をはじめ県・行政へ高騰対策に関する要請活動を展開しました。肥料などの農業関連資材の値上がりに対しては、仕入れの前倒しや早期の在庫確保などの対策を強化。また、役員が豊洲市場を視察し、農畜産物が価格転嫁できない現状や生産者の想いを訴えました。



新規就農者支援

JAでは、就農希望者への新規就農相談会や設備投資にかかる資金調達のサポートなど、新規就農者支援に取り組んでいます。佐波伊勢崎地域担い手育成総合支援協議会では、「新規就農者の集い」「フレッシュ農業セミナー」「品目ごとの新規講座」などを開き、農業知識・技術の習得や生産者同士の交流の場を提供しています。



地域の活性化に向けた取り組み

食農教育活動

ファミリー収穫祭

とうもろこしの収穫体験をメインに、金融・共済・資産運用事業のご利用者を対象として平成26年から行っています。「利用者に管内の特産物を知ってもらい、本来の味覚を楽しんでもらうこと」「JA佐波伊勢崎でしかできないイベントを通してお客様と信頼関係の強化を図り、PRすること」を目的としています。



食農教育雑誌「ちゃぐりん」の寄贈

平成22年から管内の小学校28校に毎月寄贈しています。令和4年からは伊勢崎市立図書館・玉村町立図書館にも寄贈し、地域の子供たちだけではなく幅広い層に食と農業の大切さを伝えています。また、JA佐波伊勢崎女性組織協議会からはJAと関わりが深い小学校の5年生全員に寄贈し、読書感想文コンクールに参加しています。



子どもたちの農業体験

これまで受け継がれてきた農業の大切さを知ってほしいという想いから、JAや地元農家が協力して地元の子供たちを対象に田植え体験やみそづくりなどを行っています。田植え体験ができる水田がない小学校では、JA全農で配布している「バケツ稲づくりセット」を活用しJA職員が講師となって指導しています。



交通安全資材の贈呈

JA共済が展開する地域貢献活動の一環として、令和4年で47年目と長く続いている活動です。小学1年生にランドセルカバーを、令和元年度からは中学1年生に自転車用反射材を贈呈しています。令和4年には、伊勢崎市と玉村町の新入学小・中学生に計4,975個の交通安全資材を寄贈しました。



規格外野菜などの提供

地域貢献活動の一環として、百貨館と直売所あずま店では地域の子供も食堂などに規格外品などの野菜を提供しています。地元の子供たちに地元産の野菜を食べてもらいたいという想いから始まったもので、フードロス対策にも貢献しています。



少年サッカー大会／学童軟式野球大会の協賛

JAがスポーツを通して学童の健全育成を支援し、子どもたちの夢と希望を応援するために実施しています。JA佐波伊勢崎杯争奪少年サッカー大会・JA佐波伊勢崎杯学童軟式野球大会などの大会で協賛をしています。



書道・交通安全ポスターコンクールの開催

何世代にもわたり多くの方々にご応募をいただいている歴史あるコンクールです。夏休みの課題としてJA管内の小・中学校から作品を募集しており、令和4年度の応募総数は7,691点でした。



ベジ太のひとこと

JA佐波伊勢崎は組合員や地域の皆様に貢献するために様々な活動を行っています。「あなたの暮らしの応援団」として、暮らしに関することならなんでもJA佐波伊勢崎にご相談ください!

JA佐波伊勢崎の取り組み、知ってもらえたかな? 30年ってとっても長い歴史だよ! みんなの30年はどうだったか考えてみてね!



個人情報の利用目的について、ご同意いただいたうえでご記入下さい。

お名前 フリガナ _____ 様
ご住所 〒 _____
ご職業 _____
電話番号 _____

(受取人)
群馬県伊勢崎市連取町3096番地1
佐波伊勢崎農業協同組合
企画課
飛翔JAさわいせさきコミュニティ版係 行



料金受取人郵便
伊勢崎郵便局承認
912

郵便はがき
3728790

発行有効期限
令和15年
9月4日まで



池田雅子さん



松島節子さん

川柳

寄る歳に勝てぬ我が身に

ストレッチ

遠藤勝治

短歌

冬の上テレは山を登る人
俺は度胸なくして見てる
星野幸次郎

伸びて行く飛行機雲を眼で追って
活字で遊ぶ午後ひととき
小倉キヌ子

俳句

草の芽や歩き始めの赤いくつ
樋口幸子

麦を踏む踏み込む俺も起き上がる
新井和夫

別れ霜再びめくる農日誌
中島 薫

佐波伊勢崎を詠む

JA発行の広報誌「飛翔JAさわいせさき」3月号から5月号と、「飛翔コミュニティ版」に寄せられた俳句・短歌・川柳を一部ご紹介します。

選者 JA佐波伊勢崎玉村地区女性部短歌会

募集

飛翔JAさわいせさきコミュニティ版では、皆様からのおたよりを募集しています。農業やJAのエピソード、イラストや作品などをお寄せください。
住所・氏名・年齢・電話番号・職業を明記の上、ハガキまたは封書でご投稿ください。

宛先 〒372-0812 伊勢崎市連取町3096-1
JA佐波伊勢崎「飛翔JAさわいせさきコミュニティ版」係宛

※紹介させていただいた方には、直売所利用券をプレゼント!
※ご投稿いただいた方の個人情報は紙面およびホームページでの紹介に使用させていただく場合がありますので、ご了承ください。前記の目的以外には使用いたしません。

みんなの
おたよりまっています!

365日24時間搬送対応 家族葬から一般葬まで信頼のあるJA佐波伊勢崎の葬儀

JA佐波伊勢崎では、葬儀・法事に関するさまざまなご相談を受け付けています。

たとえば

- ◎葬儀って分からないことばかりで不安
- ◎どんな準備・手続きがいるの?
- ◎終活をしたいけど、なにからはじめたらいいかわからない etc.

施設の見学も受け付けていますので、お気軽にご相談ください。事前相談をおすすめします



いせさき聖苑・さかい聖苑(JAホール以外の会場)でのご葬儀もおまかせください。

お問い合わせはこちら

JAセレモニーホールいせさき TEL0270-40-5600
JAメモリアルホールたまむら TEL0270-65-4436
JAセレモニーホールあかぼり TEL0270-62-6262

組合員を募集しています

JA(農業協同組合)ってなに?

JAは「助けあいの精神のもと、農家の営農と生活を守り高め、よりよい社会をつくっていこうとする協同組合」です。「わたしたちJAのめざすもの」のなかでは、地域農業の振興のほかにも「環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう」などと定めています。だれにでもひらかれた協同組合で、農業者にかぎらず、どなたでもご利用いただけます。

加入条件

- ◎伊勢崎市・玉村町にお住まい、またはお勤めで一定の条件を満たしている方
- ◎出資(一口:1000円)をしていただける方
- ◎継続してJAの事業を利用していただける方

※審査等によりご利用にならない場合もございます。



JA佐波伊勢崎 公式Instagram 更新中!

管内で行われる活動や旬の農産物情報、JA佐波伊勢崎のイメージキャラクター「ベジ太くん」が管内を紹介する「ベジ太くんレポート」などなど... JAを身近に感じてもらえるようさまざまな話題を発信しています!

利用方法

- ①お手持ちのスマートフォンからアプリ「Instagram」をダウンロード。
- ②「JA佐波伊勢崎」で検索もしくは右のQRコードを読み取り、フォローボタンをクリック。

QRコードはこちら!



※お使いの携帯電話によっては利用できません。

フォローやいいねをお願いします!



こんなとき、あんなとき、JAにご相談ください



JAをご利用いただくことで、地域農業の応援にもなります。

詳しくは本支店窓口、または本店管理課(0270-20-1220)へ

さわいせさきクイズ

10名さまに直売所利用券をプレゼント!

問題

新生 JA 佐波伊勢崎が誕生したのは何月何日?

今回の「飛翔コミュニティ版」をよく読んでみてネ!

JA佐波伊勢崎直売所イメージキャラクター「ワインちゃん」

応募方法

添付のハガキにクイズの答えとアンケートを、黒または青のボールペンでご記入ください。締め切りは7月4日(火)(当日消印有効)。当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。※ご記入いただいたアンケート・個人情報は、プレゼントの発送と今後のJA活動の発展のため、活用させていただきますのでご了承ください。前記の目的以外には使用いたしません。

JA佐波伊勢崎 アンケート

クイズの答え

A 1月1日 B 2月1日 C 3月1日

正解だと思ふ記号に○をつけてください。

アンケートにお答えください

Q1 今回の特集の感想等をお聞かせください。

Q2 JA佐波伊勢崎に対するご意見・ご要望などございましたらお書きください。

支店 / 直売所 その他() に対して